

宮古島地下水研

将来の健康被害を警告

高機能浄水処理
施設設備の要望

健康講習会で

宮古島地下水研究会（共
同代表＝友利直樹、前里和
洋、新城竜一）は8日、市
未来創造センターで「ネオ
ニコチノイド系農薬による
健康影響」をテーマにした



友利直樹共同代表



約100人が聴講した健康講習会＝8日、市未来創造センター内多目的ホール

健康講演会（宮古地区医師
会後援）を開催した。農学
博士でもある友利共同代表
はネオニコチノイド系農薬
の暴露で宮古島市民への健
康への悪影響の可能性を紹
介し、「汚れた地下水は洗
い流せない。子や孫、ひ孫
の健康を守るためには、こ
の問題に真剣に取り組む必
要がある」と強く訴え、参

加者からは質問が相次いだ。
友利共同代表によると同
研究会は、袖山浄水系およ
び加治道浄水系の水道水の
年間モニタリング調査を行
い、ネオニコチノイド系農
薬が毎月検出されているこ
とを明らかにした。さらに
市民の尿や養殖場の底砂、
湧水からも複数のネオニコ
チノイド系農薬成分が検出
され、宮古島の地下水や水
道水が化学農薬による複合
汚染の状態にあることが確
認されていることも強調し
た。

友利共同代表は「子ども
たちの健康と未来を守るた
めにはネオニコチノイド系
農薬やPFASなどの環境
化学物質や鉛といった重金
属を除去する高機能活性炭
浄水処理などを擁する『高
度浄水処理施設』を早急に
整備すべきだ」と語気を強
め、「できる限り早期に化
学農薬依存から総合的害虫
管理に移行し、ネオニコチ
ノイド系農薬といった健康
に有害な浸透性農薬の使用
をやめる必要がある」と訴
えた。

その上で「このままでは
子や孫、ひ孫にまで健康被

害が生じる可能性が高く、
将来的に『MIYAKOJIMA
症候群』と呼ばれる
発達障がい、高度肥満、糖
尿病、生殖障がいを伴う健
康被害が多発する可能性が
あるため、早急な対策が必
要だ」と持論を展開した。
また、同研究会では座長
味一幸市長に対し市民64
00筆の署名を添えた「高
機能活性炭浄水処理施設整備

の請願」を提出したがその
区応もなく、市議会におい
ても専門家の意見を聞くこ
となく審議未了で廃案とな
っていることを報告した。
8月27日に同研究会は糸
敷公庫保健医療部長を訪ね、
ネオニコチノイド複合汚染
と子どもたちの健康影響
について説明し、「高機能
活性炭浄水処理施設整備の
要望」を提出したという。
また、10月11日に東京都
永田町の衆議院議員会館で
開催される「デトックス・
プロジェクト・ジャパン5
周年記念シンポジウム」で
宮古島の地下水・水道水
のネオニコチノイド複合汚
染と子どもたちの健康影
響について報告することも
明かした。